

LifeKeeper for Linux v8.4.1

テクニカルアップデートインフォメーション



目次

1.	はじめに	3
2.	LifeKeeper for Linux v8.4.1 の新機能・機能変更	3
3.	重要な製品の問題の修正	4
4.	お問い合わせ	5
5.	免責事項	5
6.	著作権	5

1. はじめに

本文書では LifeKeeper for Linux v8.4.1 (SIOS Protection Suite for Linux v8.4.1 / SPS v8.4.1) での新機能や機能変更、また、重要なバグ修正に関する概要をまとめたものです。それらに関する詳細な情報につきましては、リリースノートやオンラインマニュアルをご確認いただくか、ご契約の製品サポートにお問い合わせください。

2. LifeKeeper for Linux v8.4.1 の新機能・機能変更

[LifeKeeper Core]

- Red Hat Enterprise Linux 7.1 / CentOS 7.1 / Oracle Linux 7.1 がサポートされました。

なお、LifeKeeper の保護対象とする OS や共有ストレージストレージについては、それ自体が 7.1 系の OS をサポートしていないものがあります。そのため、現時点では提供している Application Recovery Kit も一部 7.1 系 OS では利用できないものがありますので注意してください。具体的には以下の内容です。

- 7.1 系 OS での利用がサポートされる Recovery Kit
PostgreSQL, MySQL, Oracle, DB2, Apache, Postfix, DMMP, LVM, NFS, NAS, Samba, MD, EC2, Route53, Openswan
- 7.1 系 OS での利用がサポートされない Recovery Kit
SAP, SAP MaxDB, MQ, PowerPath, HDLM, NECSPS

なお、RHEL7 系でも、LifeKeeper をインストールするパーティションに xfs を利用できるようにしました。

[Recovery Kit]

- PostgreSQL Recovery Kit が、PostgreSQL 9.4 および EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server 9.4 をサポートしました。

3. 重要な製品の問題の修正

SPSv8.4.1 で修正された問題（バグ）の中で重要と思われる修正についてピックアップします。

[LifeKeeper Core]

- 脆弱性対応のため、OpenSSL のバージョンを 0.9.8zf にアップデートしました。

[LifeKeeper GUI]

- GUI でリソースのプロパティ画面を開くと、GUI がハングアップする可能性がある問題を修正しました。

この問題は JRE7 の環境で発生するため、本事象の対象となる LifeKeeper のバージョンは、v8.3.1 / v8.3.2 / v8.4.0 です。詳細については、以下の URL をご参照ください。

<http://lk.sios.com/?p=3346>

[DataKeeper]

- Multi Target の DataReplication 構成でスイッチオーバー時に、全同期か差分同期かの判定処理を最適化しました。

従来は、以下の図のようにノード B が停止中に、ノード A からノード C にスイッチオーバーした際、新たに Source となるノード C からノード A に対して全同期処理が行われていました。このような場合に、差分同期とするように判定処理を最適化しました。



- DataKeeper の圧縮処理を行う balance が、高負荷な状況でハングアップする場合がある問題を修正しました。

[IP]

- IP リソースの Source address settings が正しく動作しない問題を修正しました。

4. お問い合わせ

本ドキュメントの記載内容について、疑問点等がある場合は弊社サポート窓口までお問い合わせください。なお、お問い合わせの一次窓口が弊社ではない場合があります。サポート証書にてサポート窓口を確認のうえ、適切な窓口にお問い合わせください。

<http://www.sios.com/products/bcp/lkdk/contact/>

5. 免責事項

- 本書に記載された情報は予告なしに変更、削除される場合があります。最新のものをご確認ください。
- 本書に記載された情報は、全て慎重に作成され、記載されていますが、本書をもって、その妥当性や正確性についていかなる種類の保証をするものではありません。
- 本書に含まれた誤りに起因して、本書の利用者に生じた損害については、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- 第三者による本書の記載事項の変更、削除、ホームページ及び本書等に対する不正なアクセス、その他第三者の行為により本書の利用者に応じた一切の損害について、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- システム障害などの原因によりメールフォームからのお問い合わせが届かず、または延着する場合がありますので、あらかじめご了承ください。お問い合わせの不着及び延着に関し、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。

6. 著作権

本書に記載されているコンテンツ(情報・資料・画像等種類を問わず)に関する知的財産権は、サイオステクノロジー株式会社に帰属します。その全部、一部を問わず、サイオステクノロジー株式会社の許可なく本書を複製、転用、公衆への送信、販売、翻案その他の二次利用をすることはいずれも禁止されます。またコンテンツの改変、削除についても一切認められません。本書では、製品名、ロゴなど、他社が保有する商標もしくは登録商標を使用しています。